報告用紙①

関西学院大学　研究成果報告

2022年　４月　８日

関西学院 院長殿

所属：神学部
職名：教授
氏名：岩野祐介

以下のとおり、報告いたします。

研究制度	□関西学院留学　長期（滞在国：　　） □関西学院留学　短期（滞在国：　　） □宣教師研究期間 □関西学院外留学（滞在国：　　）
研究課題	東アジアにおけるキリスト教の社会的役割に関する歴史的比較研究
研究実施場所	韓国、ソウル市　監理教神学大学（渡航できず）
研究期間	2021年　４月　１日　～2022年　３月３１日（　１２ヶ月）

◆ **研究成果概要**　(2,500字程度)

上記研究課題に即して実施したことを具体的に記述してください。

本留学期間においては、当初、大韓民国、ソウル市の監理教神学大学 Methodist Theological Universityで「東アジアにおけるキリスト教の社会的役割に関する歴史的比較研究」をおこなう予定であった。しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大のため、2021年4月から渡韓することはできなかった。当時は外務省による海外安全情報においても渡航危険度が高く設定されており、大学の基準からしても渡航を延期するのが妥当という状況であった。

そこで4月から9月まで報告者の出身大学である京都大学に研修員として受け入れていただき、準備・研究を進めることとなった。ところが、2021年5月には、さらなる新型コロナウイルス感染症拡大により、府県の境をまたいだ国内移動さえ自粛することが要請される状況となってしまった。結果として、直接京都大学を訪問することは数回にとどまったが、京都大学キリスト教学研究室の大学院生と読書会をもつことができた。これについては後述する。

その後、大学の方針は、学部と当事者の責任において渡航そのものは可能とする方向になった。しかし報告者は、以下の理由により、当面日本にとどまることとした。

・MTUでは原則として授業をオンライン開講しているとのことであった。しかし、人文系の研究においては、現地で実際に人と会うことのもつ意味が大きい。特に、報告者の研究対象である宗教については、実際に礼拝や集会、また研究会に参加し、対面での交流、討議が重要である。

・報告者はハングルに不自由であるので、行くとなれば通訳をお願いせねばならない。また、現地で教会や研究機関を訪問するためにはご案内、仲介を依頼する必要がある。感染予防のためテレワーク・オンライン講義をおこない、外出を控えている状況のところに、協定校から客員教員が行ってしまっては結果として教職員の方々が出勤することになり、ご迷惑をおかけする可能性が高い。

・少なくともワクチンを2度接種するまでは、国内にいるべきである。

2021年12月になってMTUより、対面授業を再開予定であるという連絡をいただいた。渡航できるか韓国領事館に問い合わせたところ、日本人への短期ビザはビジネス関連に限定されており難しいであろうとのお答えであった。結局、2022年3月末まで韓国に渡航することはできず、国内で研究を続けることとなった。

一方で、内村鑑三の読書会を京都大学の院生と5月から夏頃までは毎週、また秋口からは関連分野の研究者の方々もまじえて、隔週程度のペースで実施することができた。ここでは数多くのテキストを、主として救済論、国家、国体、ナショナリズム、再臨運動といった観点からよみ直すことができた。

この研究機関の成果としては、以下の通りである。

論文

・「高倉徳太郎の『福音的キリスト教』と自由主義神学批判」（京都大学基督教学会『キリスト教学』第41号掲載予定）

本論文では、高倉徳太郎の著作『福音的キリスト教』を通して、1920年代日本における自由主義神学的傾向に対する批判について検討を加え、日本キリスト教史における、自由主義神学、自由主義神学的傾向をもつ神学・キリスト教理解に対する評価について、再検討を試みた。

研究発表・報告

・日本キリスト教学会第69回学術大会（2021年9月7，8日、オンライン）におけるシンポジウム「内村鑑三と日本のキリスト教」、シンポジウム企画と当日の司会

企画者としてシンポジストを依頼し、内村のキリスト教思想を現代受容する意味を考察し発表していただいた。また当日の司会進行を務めた。

・日本ピューリタニズム学会関西研究会（2021年11月13日、オンライン）

研究発表

「初期日本プロテスタント・キリスト者におけるピューリタニズム受容―内村鑑三、新渡戸稲造における武士道とピューリタニズム―」

本発表では内村、新渡戸がピューリタニズムをどのように受容しているか、またそのピューリタニズム像と彼らがキリスト教を受容する「台木」とする武士道との関連について扱った。

・科研費基盤研究B「抗争と粛清のアメリカー19世紀北米ポピュリズムの起源をめぐる史的考察」（代表者：中野博文北九州市立大学教授）研究会（2022年2月19日）

研究発表

「福音派キリスト教と、19世紀後半～20世紀初頭日本におけるその受容」

本発表では、福音派に分類される教派教会の歴史と日本での宣教活動について報告し、考察を加えた。

・キリスト教史学会西日本部会（2022年3月5日）

資料紹介・報告

「斎藤宗次郎関連資料の復刻―『聴講五年』と『内村鑑三先生の足跡』」

斎藤宗次郎と内村との関係について日本キリスト教史研究がご専門ではない参加者の方々にも伝わりやすいよう整理し、また復刻した著作について報告を行った。

以　上

提出期限：研究期間終了後2ヶ月以内

提出先：研究推進社会連携機構（NUC）

※関西学院留学は所属長を経て、宣教師研究期間は大学教員は学部長及び学長を経て院長に、高中部教員は各部長及び高中部長を経て院長に提出してください。

◆研究成果概要は、大学ホームページにて公開します。研究遂行上大学ホームページでの公開に支障がある場合は研究推進社会連携機構までご連絡ください。